科目名	小児看護学対象論（看護）	対象学年・時期	2年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間(内15時間)
講義概要	ディプロマポリシー3に基づく。子どもの発達と看護（概論）の知識を踏まえた上で、様々な状況下における小児看護の基本的知識を習得できるようにする。小児看護においては、子どもの身体的・精神的な特徴から、どんな状況下でも対象となる小児とその家族が健やかに生活できるために必要な看護を求められる。 小児と家族は相互関係を展開しており家族の影響は大きい。そのため小児が健康な成長発達をするためには、その家族自体が安定してることが必要となる。疾患が持つ様々な状況におかれた子どもの看護と同時に家族の看護も重要であることが理解できるようにする。		
講義形態	講義		
学習目標	１．健康を害することが子どもと家族にとってどのような影響を及ぼすのか理解できる。 ２．様々な状況下に置かれた子どもとその家族の状況を捉えた看護について理解できる。 ３．健康レベルに応じた子どもとその家族の看護が理解できる。		
学習内容 (授業計画)	１．健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 (発達段階に伴う病気の理解・プレパレーション) 事前学習：各発達段階の成長・発達 ２．急性期にある子どもと家族への看護 （発熱・呼吸困難・嘔吐・下痢等の看護） 事前学習：症状のメカニズム （発熱・呼吸困難・嘔吐・下痢） ３．慢性期にある子どもと家族への看護 ４．新生児と家族の看護 事前学習：新生児の身体的特徴 ５．検査や処置を受ける子どもと家族への看護/外来における子どもと家族への看護（グループワーク） ６．災害を受けた子どもと家族への看護/被虐待児と家族への看護（グループワーク） ７．在宅における子どもと家族への看護【医療的ケア児とその家族の看護】（グループワーク）		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　小児看護学①小児の発達と看護		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	内容については「学習内容」を参照してください。 事前学習については、指定日まで各教員に提出してください。		
評価基準と 評価方法	筆記試験		
備考			